

2013年4月1日

東急グループ代表 越村 敏昭(東京急行電鉄株式会社取締役会長)
2013年度 東急グループ合同入社式メッセージ【要旨】

東急グループ

1. 日 時 2013年4月1日(月)11:00～
2. 場 所 Bunkamura オーチャードホール(東京都渋谷区)
3. 内 容 2013年度東急グループ合同入社式における東急グループ代表・越村 敏昭(東京急行電鉄株式会社取締役会長)によるメッセージ(要旨)

東急グループでは毎年、首都圏の会社を中心に合同で入社式を開催しています。

参加会社:東京急行電鉄、東急不動産、東急コミュニティー、東急リパブル、東急建設、世紀東急工業
東急レクリエーション、東急百貨店、東急ストアなど43社

参加人数:832人

【東急グループの一員として認識すべきキーワードは「安心」と「信頼」】

東急グループは、「美しい時代へ」をグループスローガンに掲げ、交通事業を基盤とした「街づくり」を中心に、不動産事業、生活サービス事業、ホテル・リゾート事業、ビジネスサポート事業など、お客さまの生活に密着した幅広い分野で事業を展開しています。

本日より東急グループの一員となった皆さんには、このように多岐にわたる事業の大切な一部を担っていただくわけですが、皆さんに今後、ぜひ心にとどめておいていただきたいキーワードが2つあります。

それは、「安心」と「信頼」です。

お客さまや社会から寄せられている「安心」と「信頼」は、諸先輩方が長い年月をかけて獲得してきたものであり、東急グループの成長の礎となっております。時代とともに、お客さまが求める商品、サービスは変わりますが、東急グループの基盤が「安心」と「信頼」であることは不変です。

また、企業は社会的な存在でもあり、社員一人一人が「安心」と「信頼」を肝に銘じつつ、社会のルールに則って行動しなければなりません。「東急」がこれからもお客さまに選ばれるブランドとなるよう、しっかりと社会的責任を果たしていただきたいと思います。

昨今の社会経済情勢は、東日本大震災から2年が経過し、被災地は復興に向かって少しずつ歩み始めました。また、安倍政権がデフレ脱却と経済再生に向けた政策ならびに、その戦略を発表したことにより、株価が昨年12月より約4割上昇しました。これまで長く続いた経済停滞が上向きに転換することを期待しているところであります。

一方で、我が国の社会構造は、先進国でも例を見ないスピードで進む少子高齢化と、それに伴う生産年齢人口の減少により、衣料品をはじめ、多くの物の需要が、飽和状態となる大きな変革期を迎えております。こうした時代の変化に的確に対応するためには、グローバルな視点で新しい分野に果敢に挑戦していくことが求められます。

東急グループが、これまで蓄積してきた街づくりを中心としたノウハウを生かし、成長著しいベトナムや、インドネシアなど、アジア新興国において、これらの地域の発展に貢献できるような、新たなビジネスを展開しているのは、その一例です。

今後、皆さんの持つ「若い柔軟な発想」や、「行動力」が大きな力となります。

皆さんは「会社が自分に何をさせてくれるのか」という受身の姿勢ではなく、「自分は何が出来るのか」「何を求められているのか」ということを常に意識しながら、臆することなく実力を発揮していただきたいと思います。

皆さんが、これからのかけがえのない人生を有意義に過ごし、大いに成長され、そのことが東急グループの成長にも繋がることを心より願っています。

以上